

研究ノート

ヒメヤマトオサガニ南伊勢町にも生息

締次美穂

〒510-0305 三重県津市河芸町上野560-14

(2017年12月15日受付 ; 2018年2月27日受理)

キーワード: ヒメヤマトオサガニ, 南伊勢町, 三重県レッドデータブック

Miho Shimetsugu*. 2018. New record of *Macrophthalmus banzai* from Minamiise Town, Mie Prefecture, Japan. Mie Prefectural Museum Research Bulletin, 4: 35-37.

Abstract

Macrophthalmus banzai Wada & Sakai, 1989 which is listed in the Red List (Mie Prefecture 2015) as “Endangered” is recorded from Minamiise Town, Mie Prefecture. This is the first record of the species from Minamiise Town.

*Corresponding author: 560-14 Ueno, Kawage, Tsu, Mie 510-0304, Japan

はじめに

ヒメヤマトオサガニ *Macrophthalmus banzai* Wada & Sakai, 1989は、外洋に近く暖流の影響を強く受ける泥質干潟に生息するオサガニ科の一種で、雄がバンザイするようなwavingを行うことを特徴とする(締次, 2016)。国内では静岡県から沖縄県, 海外では韓国, 中国, 台湾の沿岸から報告されている(和田, 1991, 1996: 逸見, 2012: 横岡・野元, 2013)。

日本ベントス学会による干潟のレッドデータブックでは準絶滅危惧種に選定されており(逸見, 2012), 三重県のレッドデータブックでは絶滅危惧1B類(EN)に(上野, 2015), 愛媛県と福岡県のレッドデータブックでは準絶滅危惧種(NT)に(大森, 2014: 福岡県環境部自然環境課, 2014), 熊本県のレッドデータブックでは絶滅危惧II類(VU)に(熊本県希少野生動物植物検討委員会, 2014), それぞれ選定されている。

これまで三重県内では、尾鷲市賀田古川と紀北町東長島片上池, 志摩市大谷浦で記録されているが(上野, 2007: 締次, 2015, 2016), 筆者は本種を南伊勢町から得たので新産地として報告する。



図1 ヒメヤマトオサガニの三重県内採集地
(●は既産地, ★は新産地で表す)

- 1 ●尾鷲市賀田古川 2 ●紀北町東長島片上池
3 ●志摩市大谷浦 4 ★南伊勢町佐田



図2 生息地の環境（南伊勢町佐田）



図3 第3歩脚の前節・腕節前縁に軟毛を有す

検討標本

採集日：2017年11月3日

採集地：三重県南伊勢町佐田（図1）生息地の環境（図2）

採集標本：雄1. 甲幅8.2mm,甲長12.3mm；雄1. 甲幅9.0mm,甲長13.8mm（図4）

標本は三重県総合博物館に寄贈の予定である。

生息状況と考察

2017年11月3日、国道265号線沿いの三重県南伊勢町佐田で、カニ類の調査を実施した。現場で、巣穴から出てくるカニを観察していたところ、本種の雄を発見したので、素手で泥中より採取した。本種は、ヤマトオサガニ *Macrophthalmus japonicus* (De Haan) とよ

く似ているが、より小型であること、また本種の雄では（図3）第3歩脚の前節と腕節の前縁に毛を密生する（鈴木ほか，2013）のに対し、ヤマトオサガニは無毛であることから区別できる。今回の調査は繁殖期でなかったため、本種の雄の特徴であるバンザイするようなwavingは確認できなかった。県内での既知産地3か所と同じく、本調査地においてもヒメヤマトオサガニとヤマトオサガニの両種が混棲しているものと推察するが、本調査ではヤマトオサガニは確認はできなかった。県内の既産地と今回の新産地を併せて分布図を図3に示した。なお、同地の泥底をタモ網を用いて底曳きしたところ、カネコゴブシ *Philyra kanekoi* Sakai, 1934雄5個体（甲幅3.6～6.2mm）が採集された。



図4 南伊勢町産 *Macrophthalmus banzai* Wada & Sakai, 1989 ♂

謝辞

南伊勢町での調査に同行していただいた縮次琢治氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 福岡県環境部自然環境課（編）. 2014. 福岡県の希少野生生物－福岡県レッドデータブック2014－. 福岡県県民情報広報課, 福岡, 280pp.
- 逸見泰久. 2012. ヒメヤマトオサガニ. *in* 日本ベントス学会編. 干潟の絶滅危惧動物図鑑－海岸ベントスのレッドデータブック. 東海大学出版会, 神奈川, 285pp.
- 熊本県希少野生動植物検討委員会編著. 2014. 熊本県の保護上重要な野生動植物リスト－レッドリストくまもと2014－. 熊本県環境生活部環境局自然保護課, 熊本, 135pp.
- 大森浩二. 2014. ヒメヤマトオサガニ *in* 愛媛県レッドデータブック2014－愛媛県の絶滅のおそれのある野生生物－. http://www.pref.ehime.jp/reddatabook2014/detail/08_07_003670_5.html (参照日: 2017年11月22日).
- 縮次美穂. 2015. 三重県におけるヒメヤマトオサガニの記録. *南紀生物*, 57(1), 46-47.
- 縮次美穂. 2016. 三重県英虞湾からヒメヤマトオサガニを初記録. *南紀生物*, 58(2), 188-189.
- 鈴木孝男・木村昭一・木村妙子・森 敬介・多留聖典. 2013. 干潟のベントスフィールド図鑑. 日本国際湿地保全連合, 東京, 257pp.
- 上野淳一. 2007. 三重県未記録種ヒメヤマトオサガニならびに熊野灘沿岸河口域に生息するカニ類数種. *三重動物学会会報*, (30), 4-5.
- 上野淳一. 2015. ヒメヤマトオサガニ *in* 三重県レッドデータブック2015－三重県の絶滅のおそれのある野生生物－. 三重県農林水産部みどり共生推進課, 津市, 757pp.
- 和田恵次. 1991. ヤマトオサガニ同胞種2種の生物地理. *海洋と生物*. 13(6), 442-447.
- 和田恵次. 1996. 7) 節足動物. *in* 花輪伸一・佐久間浩子編. 日本における干潟海岸とそこに生息する底生生物の現状. WWF Japanサイエンスレポート. 3, 74-79. (財)世界自然保護基金日本委員会, 東京.
- 横岡博之・野元彰人. 2013. ヒメヤマトオサガニの静

岡県における生息地の記録. *南紀生物*, 55(2), 137-140.